

目的 住居内の床面（特にじゅうたんや畳）には多数のダニが生息しており、毎日の掃除では取り除くことが出来ない場合が多い。畳をあげての大掃除に類する床材の処理を行い、ダニ数を指標として大掃除の効果をみた。

方法 集合住宅居住の同じ間取り7世帯で行った。畳を高周波誘電加熱処理（ 100°C 以上）し、じゅうたんはすべて新しいものに敷替えた。処理日は昭和58年8月上旬。処理前（6月中旬）と処理後（8月末）に掃除機片社製CT-8610で床面/ m^2 当り10秒間の割合で各室ごとにダストを採取した。ダスト重量及びダスト中のダニ数を計測した。

結果 処理前のダスト量は全世帯平均で $0.42\text{g}/\text{m}^2$ 、ダニ数は $569\text{匹}/\text{m}^2$ であった。処理後は、ダスト量は $0.42\text{g}/\text{m}^2$ 、ダニ数 $103\text{匹}/\text{m}^2$ となった。処理を行った畳室のみの場合は、平均でダスト量は $0.26\text{g}/\text{m}^2$ と前後が変わらないうが、ダニ数は $294\text{匹}/\text{m}^2$ から $102\text{匹}/\text{m}^2$ へと減少した。じゅうたんの敷替をした部屋（すべて畳の上に畳敷であり、畳は同様に熱処理とした）ではダスト量は処理前後とも $0.70\text{g}/\text{m}^2$ であった。ダニ数は $1323\text{匹}/\text{m}^2$ から $138\text{匹}/\text{m}^2$ と減少した。

年間のダニ数の推移は春から増大しつづけて、7月の梅雨期に減少し、8月に再び大きく増え、6月期以上の数になることがわかっている（既発表）。今回の調査は減少することが予想される7月期をはずして6月期と8月期にダスト採取を行い、処理によって8月期の大幅なダニの増加が抑えられるかどうかをみたものである。今回の調査結果によると、十分に効果はあるようだ。なお、この効果の持続性については現在調査中である。